

【甘楽町】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

甘楽町第6次総合計画書「しあわせホームタウン甘楽」では、1人1台タブレットPCと高速大容量の通信ネットワークを整備し、教職員のデジタルリテラシー及び児童生徒のネットリテラシーの向上を目指し、個別最適な学習ができる環境づくりの推進を掲げている。

GIGAスクール構想のスタートにより、令和2年度に1人1台タブレットPCを整備して以来、デジタル教材や学習支援ソフトの活用による個別学習の充実と協働的な学びの両立を図ってきた。デジタル機器の活用により学習の記録や振り返りが容易となり、児童生徒が自らの成長を実感できる環境を推進してきた。このことは、目標とする未来を担う力を育む人づくり(前出の計画書より)の一部を担っている。

AI技術の発達などこれからの情報社会に適応できるよう、自ら考え問題を解決できる人材づくりを支える教育環境を整えていきたい。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に1人1台タブレットPCを整備してICT環境が大きく前進し、通信ネットワークの整備や大型モニター等の機器の整備を推進してきた。

整備に伴いトラブルなどがあったときの問合せ先としてGIGAスクール運営支援センター(ヘルプデスク)を設置し、小中学校4校あたり1人のICT支援員を導入したことで、教職員サポートの体制、児童生徒のタイピング力の向上、小学校から中学へ接続するときの小学校3校のICT技術の平準化などが構築できた。

しかし、通信環境や端末管理の課題、教職員のICTスキル向上など、今後検討が必要となる事例も出てきた。

これらの成果と課題を踏まえ、第2期では国の動向や県内の情報を検討しながら、より効果的な活用を推進したい。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の持ち帰りを推奨し家庭学習においては、AI機能を搭載した学習ドリルを活用し他学年の単元も簡易に利用できることから個別学習の習熟度が深められる。

また、委員会活動や校外学習など校内外のさまざまな場面においても端末の活用を推進していく。導入しているCanvaを活用した資料作成や発表では、より具体的な情報伝達・共有が期待できる。デジタルツールによる共同制作やリアルタイムでの意見交換など協働的な学びを推進していく。

学習のみならず、児童生徒の心の状況を端末から教職員へ送り、その情報の共有が教職員間で簡易にできる環境を構築し児童生徒の支援につなげる。学校や学級になじめない児童生徒にはオンラインでの授業環境を校内別室・自宅で今後も継続していく。

第1期に整備したICT環境を引き続き維持し、第2期の端末更新の際もヘルプデスク、ICT支援員の設置など支援環境を継続し、教職員がICTを効果的に活用できるよう研修や実践的なサポートを充実させていきたい。